

第1回次期総合振興計画（区の将来像）に係る浦和区検討懇話会 議事要旨

開催日時：2018年11月30日（金）9：00～11：10

開催会場：さいたま市浦和区役所 仮設置棟1階多目的室

出席者（懇話会委員）：

公益社団法人埼玉中央青年会議所 常務理事	池上 力哉 氏
青少年育成さいたま市民会議浦和区連絡会 会長	池ノ内 登 氏
さいたま市浦和商店会連合会 副会長	市川 淳平 氏
さいたま市交通安全保護者の会(母の会)浦和支部 副支部長	遠藤 有紀子 氏
協同組合浦和のうなぎを育てる会 代表理事	大森 好治 氏
さいたま市 PTA 協議会浦和区連合会 理事	軽谷 千陽子 氏
NPO 法人 Arts&Health さいたま 代表理事	菊地 順子 氏
浦和区岸・神明地区社会福祉協議会 会長	佐藤 健一 氏
さいたま商工会議所 女性会副会長	関口 聡子 氏
さいたま市浦和区老人クラブ連合会 会長	高桑 稔 氏（職務代理）
さいたま市浦和区民生委員児童委員協議会 副会長	並木 恵美子 氏
浦和レッドダイヤモンド株式会社 本部長	畑中 隆一 氏
さいたま市浦和区自治会連合会 会長	藤枝 陽子 氏（座長）

（事務局：さいたま市）：

浦和区役所：山岸区長／増田副区長／矢作区民生活部長／今井健康福祉部長／
島崎総務課長／総務課員2名
都市経営戦略部：篠葉参与

欠席者（懇話会委員）：

NPO 法人 Art Beat Heart 代表理事	日榮 貴子 氏
さいたま市環境美化会議浦和 会長	丸山 繁子 氏

議題及び公開又は非公開：（議題） 浦和区における「課題」と「将来への期待」について
浦和区の将来像・まちづくりのポイントについて
浦和区の将来像の見直しについて

（公開又は非公開の別）公開

傍聴者の数：0人

審議した内容：議題と同じ

問合せ先：浦和区役所 区民生活部 総務課 電話番号 048-829-6015

1 開会

2 挨拶

区長及び都市経営戦略部参与より、挨拶があった。

3 出席者紹介

委員及び事務局の紹介があった。

4 座長及び職務代理者の選出

委員の互選により、座長に藤枝委員を、座長の指定により職務代理者に高桑委員を選出した。

5 意見交換

- (1) 浦和区における「課題」と「将来への期待」について
- (2) 浦和区の将来像・まちづくりのポイントについて
- (3) 浦和区の将来像の見直しについて

各委員より、上記議題について、次のとおり意見及び感想を述べた。

●浦和区における課題と将来への期待について

・高層マンションが非常に増えている中で、どのような人たちが入って来るのか心配している。生活の習慣が異なる人々が多く入ってくることも予想され心配している。50年後には外国語で挨拶をしているかもしれない。

・マンションが多く建ち、郊外の人達も駅の近くに移り住んでいる他、外国人も含め多様な人が入ってきている。子どもの教育の関係で越してきた人もいる。またマンションが立ち並び景観も失われてきている。

・自治会、商店街の組織的な活動が難しくなっている。自治会関係では回覧板が回ってこなかったり訃報が届かなかったりして苦勞している。商店街ではチェーン店が増加していることもが一因となり組織の弱体化につながっている。私の好きなお店もなくなりチェーン店が増えている。そのことにより画一的な商店街になっていく流れを懸念している。商店街をどのように活性化していくかについてお力添えいただきたい。

・若い人に浦和区に興味を持ってもらい、浦和区をもっと知ってもらう必要がある。

浦和区の中で将来を担う地域リーダーとして若い人を育成する必要があり、中学生、高校生が区政に参加するなど、若い人の意見を取り入れ区政に生かす仕組みがあれば浦和区は活性化すると思う。そのことにより若い人は浦和区に住み続けたいと思うのではないかと思う。

高校生を対象にワークショップを開き、「10年後のさいたま市をどんなまちにしていきたいか」というテーマに、高校生からは人が集まるまち、人が流れるまち、若者の力で活気あるまちにする、という意見が出た。若い人と知識を持つ人たちが対話しながらまちづくりについて考えることが必要だと考えている。

・昨年、青年会議所の全国大会を我々の地域で開催する際、地域の魅力について考えた時に、浦和レッズは知名度があり分かりやすいが、うなぎ、というと浦和区だけでなく例えば九州にも有名なところはある。従って浦和区としてうなぎを推していくのであれば広報の仕方を工夫する必要がある。うなぎを含め浦和区として、地域の魅力として発信したいものの広報の方法を検討すべきではないかと考えている。

・浦和はケーキやパンの消費量が全国1位、2位だとテレビの情報番組で聞いており、そのような点にも焦点を当てるべきではないかと思う。

・少し昔の話だが、旧浦和市ではうなぎの消費量が全国一だった。専門店も50軒ほどあったが現在は15軒程でうなぎの店舗が少なくなったことが知名度の減少につながっている。市の支援もあり、現在函館や古河、浜松、一色等に出向き浦和のうなぎのPRを行っている。皆さんの協力を得ながら知名度を上げていきたい。またうなぎ以外の名産も推していけば区のイメージ向上になると思う。

・地域や郷土愛の延長上にまちの魅力を発信するということがあると考えている。

新しい住民が増える中で、まちを良くしていくには、まちの文化・過去の歴史を知った上で新しいことにチャレンジすることが重要と考えている。我々もレッズだけが頑張ればいいと考えているわけではなく、まちの歴史や文化を知ってもらうことにレッズが貢献できればと考えており、そのためには情報発信ということが課題になってくる。

浦和駅で市と協働して行ったサッカーストリートもサッカーのまちや地域の観光資源を知ってもらう、ということを目的としており、地域のイベントをどの様に伝えればよいかに

ついて市などと一緒に取り組んでいる。ファン感謝デーにおいて、うなぎまつりとスタンプラリーを共同で実施し、相互に誘客を行った。スタジアムのホームタウンシートも今年はサッカーのまち浦和シートとかホームタウン浦和シートなどといった名称にして目に見える形にしているが、その様なところでまちの魅力の発信を一緒にできないかと考えている。新しい住人には古いまちのことや魅力を伝えていく必要があると思うが、情報を伝える手段は SNS とか若い人たちの力を借りて、でも、大事にしてきたまちの魅力とか歴史とかの伝え方だけは皆で一生懸命考えていく必要があると思う。

- ・若い人たちが集まるまちづくりが重要になってくる。若い人たちが集まることで活性化にもつながる。課題もあると思うが皆で協力して乗り越えていきたい。

- ・マンション建設が都市計画に基づいているのかが気にかかる。

住みやすいまち、ということだが本当にそうだろうか。もっと良くすべきところが多くあるのではないだろうか。そのようなことを大いに議論したい。

また、この会議は、後期基本計画の中で良いところを伸ばし悪いところを改善する、という議論の場にしたい。

●浦和区の将来像・まちづくりのポイントについて

- ・まちの評価をするときに他市との比較を行う方法がある。

また、商店街では、主婦層やファミリー層が購買層になり商店街を通ってくれるが、子連れなど年齢層が下がってきており、まちの在り方としては安全安心を第 1 に考えることも 1 つの方法ではないかと思う。

- ・普段の活動の中で、道路の段差や交通量が多いのに歩道がなかったりすることが多く気になっている。また自転車レーンの自転車のマナーが気にかかる。まちの中で安全に暮らすために必要なことを学校教育や子ども会等で小さい頃から教えることが必要ではないかと思う。うなぎや農産物など、浦和と言ったらこれ、というものを小さい頃から教えていく必要があると思う。そうすれば、子どもを通じて新しく移り住んできた保護者も浦和について知るきっかけになり、また違う人に伝えられたりするので、そのようなことが広がればと思う。

- ・子どもの頃に色々なことを体験することは重要だと感じており、同じ思いだ。

小学校 6 年生がクラス対抗でサッカー大会を行い卒業するというのは日本全国でも浦和だ

けである。その結果卒業生が父兄になっても、「お母さんもサッカーやっていたんだよ。じゃあ一緒にスタジアム行こうか」という形でつながっていき歴史になるのかなと思う。うなぎを給食で食べることやさくら草の手入れをしてから卒業するなど、小さなころからの取組みがまちの歴史につながるのではと思う。

- ・シャッター商店街が増えている。商店街の活性化には魅力あるまちづくりが課題だが、商店街だけでなく区民全体の課題だと思う。

- ・浦高に入れるために浦和に引っ越す人もいと聞いている。文教都市として浦高や一女をもう少しPRできないか。

- ・子どもにうなぎの食文化を覚えてもらいたいと考えており、給食で安全で安価にうなぎを提供する方法を検討している。

- ・うなぎは高い。だけど、おいしい、元気が出る。だから、逆に味が落ちてはいけない。食を通して、勉強すること、仕事をする事、家族を養うことなどを子どもに教えてきたが、この様な取組みが皆に伝わればと考えている。

- ・自治会で子どもとウォーキングをし、うなぎを食べに行くイベントを開催した。参加した小学生も喜んで食べていた。そういったことを通じて広げていくのも一つの手だと思う。

●浦和区の将来像の見直しについて

- ・地元で坂が多く、高齢者の買物が難しくなっている。

将来像についてはこの様な買い物難民についての対策も考えていただきたい。

- ・浦和駅西口の再開発で浦和駅周辺が変わっていけば、浦和区も変わっていくのではないかなと思う。

- ・若い人が地域に参加するようにするには、都内等で働いている人たちの地元愛を育む必要がある、その方法を検討すべきであろうと思う。食のイベントなどがあると若い人も出てくるのではないかな。

最近緑が減ってきているように感じるが、公園にも緑を増やし子どもたちが自然の中で

暮らすようにすれば両親もずっと住み続けたいと思うのではないか。

- ・商店街の賑わいが無いことについてはテナント料が非常に高いことが原因の1つとしてあるが、商店街衰退の問題は難しく、道をきれいにすればいいとか、そのようなことで解決する問題ではない。

- ・商店街は子どもの見守りや対話が生まれる場であるなど、町内が一体化する原点であった。商店街の活性化には基盤となる人対人の関係が大事になると思う。

- ・昔からの商店は高齢化し、後継ぎがないことが課題となっている。

- ・若い人を地域に入れるのは難しい。自治会では毎年1人か2人携わってもらうことで、絆が生まれており、各集合住宅からも1人は自治会に出てもらっている。

- ・ポイント2について、浦和のブランドの中でケーキやパンを加えることを検討してはいいか。またポイント1について、「地域住民と行政の協働を実現するための環境の整備」は非常に大切で、ごみゼロ運動などの取組みを増やしていく必要があり、具体的な表現方法についてはご検討いただきたい。

- ・ポイント1について、「地域住民と行政の協働を実現するための環境の整備」の中で、公的な施設、スペースについて、使用の条件を緩和し行政と住民と一緒に活動できるようにしてほしい。さいたま市役所の前で行われたうらわ LOOP ナイトマルシェは市役所と市民が協働して行っているが、住民も楽しんでおり夏以外にも開催していただければと思う。このような形でいろいろな仕掛けを行い、住民のアイデアが自由に言えるような機運ができればいいと思っている。市民の意見が吸い上げられるような仕組みがあれば良いと思っている。

- ・今日議論の中で出たキーワードが計画の中に入れることができると考えている。例えば郷土愛、住む人が街を愛する、といった言葉を区の将来像のタイトルの下に入れたり、食文化という言葉や「ポイント2」に入れたり、マンションに関連し「ポイント5」の中で「景観をこのように考えます」と入れたり、自治会については「まちづくりのポイント1」で、

自治会活動を通じて、という言葉を入れたりしてはどうか。

- ・まちづくりのポイントのタイトルがもう少し短くてもよいのではと思う。

6 閉会